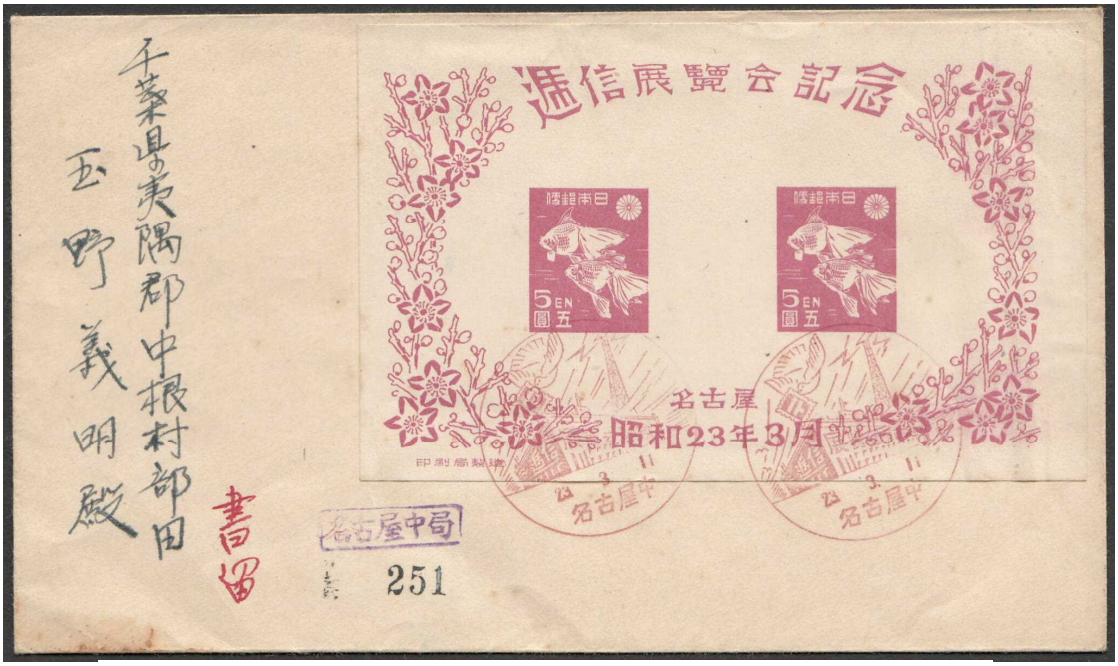
小型シート丸ごと貼りの実逓ＦＤＣ

石原 正



「名古屋展」貼り書留実逓ＦＤＣ　　名古屋中　S23(1948).3.11 → 千葉県

戦後、昭和22年(1947)から24年(1949)にかけて、普通切手などの印面を流用した小型シートが多数発行されました。そのほとんどは地方規模で開催された切手展・博覧会などを記念して発行されたものです。安易な増収策だとして、当時の収集家には不評な発行でしたが、初日印を押してマイコレクションに加えた収集家も、少なからずいたようです。一般に使用済(初日記念押し)の方が未使用よりカタログ評価の高い小型シート類の中で、これらの乱発小型シートの中には逆に未使用評価の方が高い例も散見されます。

しかし丸ごと貼りのＦＤＣとなると話は違います。白封のものであっても、なかなかお目にかかれるものでありません(ただし封筒との間の割り印が完全であることが条件)。まして実逓便となるとなおさらです。

上の写真のＦＤＣは、「名古屋逓信展覧会」貼りの実逓便です。書留扱いとなっていて引受番号が印字されています。普通はこの引受番号とともに局名(または局固有の記号)が印字されるのですが、枠つきの「名古屋中局」のゴム印が目を引きます。展覧会の臨時出張所で書留便の引受はできなかったはずで、局の窓口で差し立てたものでしょう。ありふれた初日印押し小型シートを、後から封筒に貼りつけて作成した「まがい物」でないことは明白です。

当時の郵便料金は、封書料金が1円20銭、書留料が5円でしたから、書留便としての必要料金は6円20銭です。料金過納となっていますが、記念切手のＦＤＣですから、そういう点にケチをつけるのはよろしくないでしょう。(編)